



**山本哲男氏**  
トッパン エムアンドアイ  
株式会社  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト  
代表幹事



**平山武司氏**  
株式会社ニッポン  
ダイナミックシステムズ  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト  
副幹事



**柿澤晋一郎氏**  
三和コムテック株式会社  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト  
副幹事



**上甲将隆氏**  
株式会社ミガロ  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト  
副幹事



**武藤元美氏**  
株式会社福岡情報  
ビジネスセンター  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト  
副幹事



ゲスト **熊本義信氏**  
日本アイ・ビー・エム  
株式会社  
理事 システム製品事業  
パワーシステム事業部長

i Magazine特別企画

**緊急座談会**

# IBM i マニフェスト 第2ステージへ

「IBM iのよさを広く普及させよう」を合言葉に  
多様な活動プランを計画

70社以上のIBM iベンダーで  
構成される「IBM iマニフェスト」が  
7月1日に活動規約をまとめ  
「第2ステージ」とする新たなスタートを切った。  
アドバイザリー・ボードと  
7つの分科会を推進母体とし  
さまざまな取り組みを展開していく計画という。  
IBM iマニフェストの目的と計画は何か。  
幹事5名と、ゲストとして  
日本IBMの熊本義信 パワーシステム事業部長を迎え、  
語り合っていた。

**IBM i**  
マニフェスト

賛同企業



### 山本哲男 氏

トッパン エムアンドアイ株式会社  
代表取締役社長

IBM i マニフェスト 代表幹事

IBM i マニフェストのような  
草の根的な自発的な  
熱い取り組みは、  
これまで皆無だろうと思います。

### IBM i への個々の思いが マニフェストに結集

**山本** 昨年の夏ごろに、まだ動き始めたばかりの「IBM i マニフェスト」を知って、実はびっくりしたんですね。ベンダーが自主的に集まって「IBM i のよさを広く伝えていく」という。しかも公に、お客様に宣言するとは、凄いと思いました。私は去年まで約 40 年間 IBM に在籍していましたが、そんな草の根的な自発的な取り組みを聞いたことがありません。おそらく皆無だろうと思います。しかも、「企業が不断の革新を続け、競争力を増強していかなければならない今こそ、IBM i という基盤が必要」と趣意書に記している。そのことは私も常々思ってきたことで、我が意を得たりと、ものすごくうれしい気持ちになりましたね。

**柿澤** まったく同感ですね。私のほうはこの 1~2 年、IBM i のよさを広めていくのと、IBM i こそビジネスイノベーションの真の力になるとの思いからアカデミック・イニシアティブ (\*1) や IBI アライアンス (\*2) などに取り組んできました。だから、「ベンダーが自発的に結集して」という IBM i マニフェストのアイ

デアを聞いた時は、これは大きな動きに  
しなくてはいけない、全力で推進しよう  
と思いました。

IBM i マニフェストの発端を作った 1  
人である上甲さんは、最初はどんな考え  
方だったんですか？

**上甲** 私は数年前から、IBM i の販売  
方法や使われ方が従来と少し変わってき  
たと感じていました。それで、弊社  
のお客様を対象に満足度調査を実施した  
ところ、自社の製品情報だけでなく、  
IBM i 全体についてもっと情報を提供  
してほしいとのご意見が多く寄せられま  
した。そこで、数社のツールベンダーと  
協力してさまざまな情報を発信する一步  
会 (\*3) を立ち上げたんですが、それは、  
1 社だけでソリューション情報を提供する  
のではなく、市場に携わるベンダーが  
協力して情報発信する時代になっている  
という認識からでした。私の中では、そ  
れが IBM i マニフェストの取り組みに  
膨らんでいったという感じです。

**平山** 私のほうは、AS/400 のテクノロ  
ジーに魅せられた 1 人の技術者として、  
また IBM の中小型機市場をベースに誕  
生した UOS (\*4) で長く IBM i を応援  
してきた立場から見ると、この優れたマシ  
ンをもっと普及していいはずだとずっと  
思ってきました。そうしたところへ昨年  
の System i と System p の統合があり、  
i は p に吸収されたという誤った印象を  
抱く人が出てきたように見受けられまし  
た。そうした誤解は根気よく解き、i の  
よさを粘り強く訴えていくしかありませ  
ん。だから IBM i マニフェストの企画  
を知った時は、「これだ！」と思いました。  
まあ、単体のハードウェアではなくな  
った点については、ファンとして一抹のさ  
びしさはあるんですけどね。

**武藤** そのお気持ちはよく分かりま  
す (笑)。私も熱烈なファンの 1 人です



### 上甲将隆 氏

株式会社ミガロ  
代表取締役社長

IBM i マニフェスト 副幹事

IBM i のよさを、1 社単体ではなく、  
ベンダーが参集して  
ダイナミックに伝えていくのが  
マニフェストですね。

から。でも、i と p が一緒になった時に、  
これで IBM i の優位性は他と比較にな  
らなくなったと確信しました。AS/400  
の優れたテクノロジー思想が、圧倒的な  
パフォーマンスを持つ Power Systems  
上で展開されて IBM i OS として融合  
されたわけですから。去年の夏の今ごろ  
に、私はこの事実を一刻も早く市場に伝  
えるべきだと使命感に燃えていました。  
そこへ、IBM i マニフェストの話です。  
絶妙のタイミングでしたね。

### IBM i の 圧倒的な優位性をアピール

**山本** 武藤さんの言う「圧倒的な優位  
性」はその通りですね。私は、システ  
ム /3 を基点とする IBM の一連のミッ  
ドレンジマシンの販売に長く携わり、  
AS/400 に育てられました。AS/400 の  
前身であるシステム /38 が登場した時  
は、これこそ当時山積していた課題を  
解決する夢のマシンだと感動したもので



IBM i マニフェストのホームページ  
www.iforum.ne.jp

IBM i  
マニフェスト

賛同企業

す。AS/400 の設計思想は IBM の良心でありテクノロジーリーダーを体現する技術の集積であったと、今も思っています。それから 20 年以上、システム /38 から数えれば 30 年以上ですが、同一のアーキテクチャ上に先進技術が積み上げられて Power Systems へ至るわけです。こんな素晴らしいマシンは他にないでしょう。そして、その卓越した設計思想や資産の継承性、ミッションクリティカルな業務運用への対応力などが、システムの構築・運用がいつそう難しくなっている今の時代に、改めて光を放っていると思うのです。

**武藤** 本当にそう思いますね。だから私は、既存の IBM i ユーザーへご説明する時は、IBM i は資産を継承しながらオープンなシステムへ世界を広げつつあることを実感してもらうようにしています。また、IBM i を知らない初めての方にご紹介する時は、オールインワンでこれほど安定して TCO を削減できるマシンは他にないことをご説明します。すると、ほとんどの方は、日経コンピュータ誌で 10 年以上連続で、顧客満足度評価が 1 位である理由を納得して下さいます。ユーザーにとって有益なことを認知してもらうためにも、市場へのメッセージを絶え間なく発信していくべきな

日本経済新聞掲載のメッセージ広告  
2009 年 1 月 13 日朝刊

**IBM i マニフェスト**  
IBM i パートナー71社の共同宣言  
経営・ビジネス革新のご期待に応えるために

IBM i は、昨年2008年を節目として、AS/400 以来の約40年間の歴史、その発展の歴史こそ証明した成果の集大成、(お客様のビジネスに直接付加価値) となる価値の集大成の集大成に達したと見なされ、先達の功績を高く評価し、改めて敬意を表します。

IBM i ユーザーの皆様へお慶びを申し上げます。IBM i は、お客様のビジネスをより良くするために、常に進化を続けています。IBM i は、お客様のビジネスをより良くするために、常に進化を続けています。IBM i は、お客様のビジネスをより良くするために、常に進化を続けています。

IBM i は、単一プラットフォームとして世界最大のユーザー数を誇ります。日経コンピュータが毎年発表している「顧客満足度調査」では、10年以上連続で1位となり、お客様の期待に応えています。その信頼性、安定性、投資効果の高さは、ひとまじり誇りにしています。

私たちは、2008年という大変な年を乗り越え、IBM i の価値とその大きなユーザーの存在に再認識いたしました。そして、IBM i の価値とその大きなユーザーの存在に再認識いたしました。そして、IBM i の価値とその大きなユーザーの存在に再認識いたしました。

さらに、この卓越したシステムを私たちが存続させていくべきであるという思いを、また、IBM i の見どころをお客様のビジネスを推進させるための方法を見出し、より多くのお客様へ、情報をお届けしました。

私たち「IBM i マニフェスト」の目的は、IBM i という世代のソフトウェアを継承する価値を認識させること、IBM i の価値を伝えること、また、IBM i の見どころをお客様のビジネスを推進させるための方法を見出し、より多くのお客様へ、情報をお届けしました。

そして、私たち「IBM i マニフェスト」は、これら71社(IBM i ユーザー)の賛同と共に、お客様のビジネスを推進させるための方法を見出し、より多くのお客様へ、情報をお届けしました。

2009年1月  
IBM i マニフェスト実行委員会



**柿澤 晋一郎 氏**  
三和コムテック株式会社  
代表取締役社長  
IBM i マニフェスト 副幹事

「海外メディアからも大きな反響がありました。IBM i マニフェストの思いは、海外の人たちとも共通しています。」

んです。柿澤 このマシンの素晴らしさをもっと多くの方々に伝えていくのは、ビジネスに携わる者の責務でしょうね。また、長くこのマシンをお使いいただき、このマシンを育ててくださった多くのお客様に対するご恩返しだと考えるべきですね。上甲 皆さんの話をうかがっていると、要するに、IBM i に対する熱い思いが、IBM i マニフェスト以前から皆さんの胸の内にあったということですね。そうであったからこそ、短期間の募集にもかかわらず 71 社が賛同し、日本経済新聞へのメッセージ広告に結実したのだと思います。

**熊本** 私は今年 1 月 1 日に事業部長に着任したのですが、それから間もない 1 月 13 日の日経本紙朝刊で 1 ページ全部を使ったメッセージ広告を拝見しました。その時の衝撃は一言では言い表せないくらいで、非常に感動したのを覚えています。メーカーが掲載した広告ではなく、71 社という多数のビジネスパートナーによる自主的な取り組みであるという点が IBM i の優位性を伝えるメッセージをより説得力あるものにしたと思っています。

ます。**山本** IT 市場全体を見渡してちょっと残念だと思うのは、IBM i が、他社がまったく真似のできないプラットフォームであるゆえに「知る人ぞ知る」マシンになってしまっているという事実です。つまり、使ったことのない人はその存在さえも知らない。IBM i の価値が伝わっていない状況があることです。

実は、IBM i マニフェストのメッセージ広告を新聞で読んだあるお客様から、「これをやってほしかったんだよ!」と、非常に感謝されました。IBM i を採用する企業のシステム責任者は、あまりの素晴らしさゆえ、そのよさを社内でなかなか認知、理解してもらえず、孤軍奮闘しておられる方が多い。そういう方の背中を押す意味でも、あるいは、まだ i を知らない方に仲間に入っていただくためにも、ああいう強いメッセージが必要なのだと思います。

**平山** あのメッセージは非常に新鮮かつ強烈で、最初の取り組みとして成功したと思います。ただ、新聞広告だとすぐに忘れられてしまいます。IBM i の価値を広く伝えていくには、多様な角度から、具体的かつ継続的な活動が必要です。そしてその認識がある手応えを持って感じられたからこそ、1 月の新聞掲載から現在の「第 2 ステージ」へ発展してきたのだらうと思います。その意味で、1 月に新聞掲載したメッセージは、お客様やユーザーへ向けたメッセージであると同時に、私たち自身の活動の象徴にもなっているわけですね。

**上甲** 本誌をお読みいただいている方に簡単に経緯を説明させていただくと、日経新聞へのメッセージ広告掲載後、賛同企業の中から「IBM i マニフェストの活動を継続しよう!」という声が多数上がり、2 月に 15 社の自発的な参加によ



## 平山武司 氏

株式会社ニッポンダイナミックシステムズ  
代表取締役社長

### IBM i マニフェスト 副幹事

「技術者として、UOSのメンバーとして、  
卓越している IBM i は  
もっと普及していいはずだと  
思っています。」

りアドバイザー・ボードが結成されました（現在16社）。それから月に1度の割合で会議を開いてきましたが、その中の成果の1つが7つの分科会の設置です。これは、テーマごとにグループを組み IBM i 普及のための具体策を練ろうというものです。優位性の研究、即効プロモーション、マーケティングの展開、メディアの活用、Winback 対策研究などと多彩です。

**柿澤** 分科会は非常に活発ですね。月に数回ミーティングを開いているところもあるとか。

**武藤** 私は「テクノロジーと優位性の徹底研究 分科会」に参加しているんですが、毎回4名のメンバーと熱く語り合っています。そして、その議論のアウトプットは、他の分科会へ提供し活用いただく予定です。分科会での議論は、それが市場においてムーブメントを起こすトリガーになるはずなので、エンジニア出身の私にはとてもやりがいがあります。7つの分科会の活動と情報共有は、何事にも代えがたい価値がありますね。

**上甲** そう思います。私が参加しているマーケティング分科会では、ユーザーの

方々がご利用できる事例データベースの構築を検討中です。先ほども申し上げたように、今は1社のみで情報発信する時代ではないので、IBM i マニフェストの中で他のパートナーと一緒に活動し、ユーザーへ役立つ情報を明確な形でご提供できる意味は非常に大きいと思います。

**平山** その通りですね。IBM i マニフェストの活動が活発なのは、裏を返せば、その根幹に根強い「飢餓感」のようなものがあるからですね。市場の状況を見て、「自分たちに今できることは何か」とずっと考えて続けてきたけれど、独力では解決できない、1社では成果がでない。そういう飢餓感が、具体的な目標と活動ベースを得て、一気に動き出した感があります。

**柿澤** それと、日本 IBM の内部で IBM i マニフェストに対する評価が高まり、呼応する動きが出てきたことも大きかったと思います。パワーシステム事業部やゼネラル・ビジネス事業部とは継続的に情報交換し合い、協力しながら活動を展開し始めています。これも新たな動きですね。

**熊本** IBM では、お客様への情報発信のための施策の1つとしてビジネスパートナー様と共同でセミナーを開催したり、また、パートナー様との協業によるソリューションの拡充に努めています。そうした中で、IBM i マニフェストが分科会をベースに具体的かつ継続的な活動へ移行したのを知り、方向感を共有するためにも、すべての分科会に IBM の担当者を配置させていただきました。

また私たちは、導入コストの観点からいったんは他社 x86 サーバーへ移行したものの、信頼性に問題を感じて、結局 IBM i に戻られたお客様や、他社メインフレームから IBM i へ移行し、非常



## 武藤元美 氏

株式会社福岡情報ビジネスセンター  
代表取締役社長

### IBM i マニフェスト 副幹事

「System i と System p が  
統合された時に、  
IBM i の優位性は他と比較に  
ならなくなったと確信しましたね。」

に高い満足度でお使いいただいているお客様の例など、IBM i を評価いただいているたくさんのお客様事例を確認しています。こうした事例を含め、このマシンのよさをもっとメッセージしていくつもりです。

**柿澤** もう1つ、IBM i マニフェストが海外のメディアでも取り上げられ大きな反響があったことも、注目すべきです。つまり、私たちの思いや活動は日本だけに閉じられたものではなく、海外の人たちの思いや認識とも共通しているということです。海外でも IBM i マニフェストと同じ動きを起こそうとの声が上がっています。彼らとも継続的に連絡を取り合っていく必要がありますね。

### 過去に例のない画期的な取り組み

**柿澤** UOS や iBI イニシアティブ、一歩会など個々のコミュニティ活動がある中で、IBM i マニフェストはその集大成と言えるものだし、市場に大きな活力をもたらす可能性がありますね。

**武藤** 同感です。私は、IBM i へのオープンソフトウェアの実装などで、UOS グループや OSS 協議会 (\*5) などの人

IBM i  
マニフェスト

賛同企業

たちと一緒に研鑽してきましたが、そうしたIBM iファンの中でも極め付けのファンが集まっているのがIBM iマニフェストだと感じています。私も「惚れて通えば千里も一里」のごとく、毎週のように上京して活動しています。IBM iマニフェストがにわかに広がり、IBM iがエンタープライズ・クラウドのITインフラのスタンダードになるのだとイメージしています。

**上甲** それと、ユーザーの方々に知っていただきたいのは、このIBM iマニフェストの活動は、ユーザーの方々にとってもメリットのある取り組みだということです。メーカーであるIBMは、iの技術革新を今後も続けていきます。そして私たちベンダーは、そのiの上で、お客様の要望を取り込んでソリューションを提供していきます。そのためには、私たちは必要な情報をどんどんご提供していき、逆にユーザーのご要望を吸収してメーカーへ伝えていく責務があると考えています。それを1社単体ではなく、多くの賛同企業が集まってダイナミックに行っていくのがIBM iマニフェストです。

**柿澤** だから、私たちの活動に対する感想やフィードバックもいただきたいですよ。

**上甲** そうです、そう思います。ユーザー



### 熊本義信 氏

日本アイ・ビー・エム株式会社  
理事 システム製品事業  
パワーシステム事業部長

「日経本紙のメッセージ広告は、パートナーによる自主的な取り組みである点に非常に感動しました。」

の方々に参加いただける機会も作っていきますから、その節は積極的に参加したりご意見をいただきたいですね。

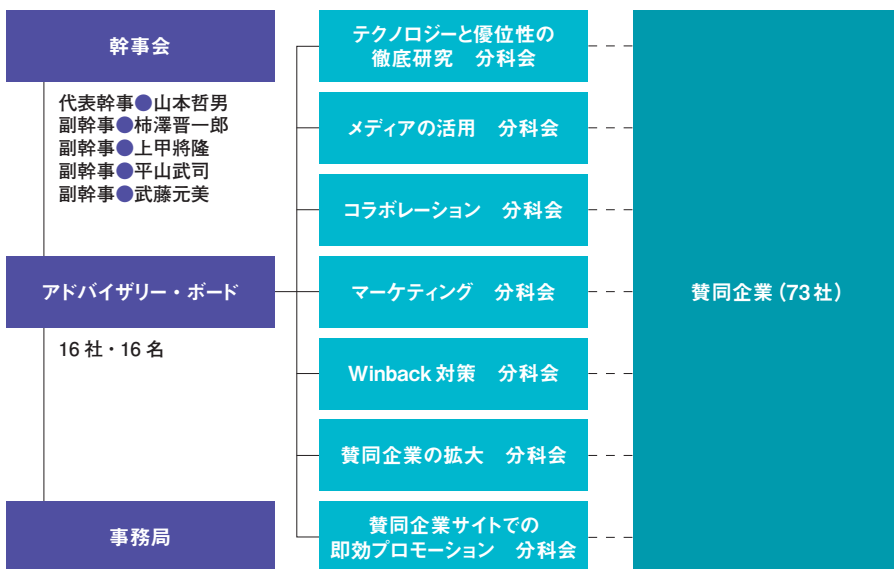
**山本** 1月の新聞広告の前にも後にもさまざまな意見が寄せられましたが、その中に「これはIBMのやるべきことだ。メーカーの責務である」という指摘がありました。しかし、それは違うと思うんです。それでは、市場へのメッセージ発信がこれまでと同じ受け身のままで、状況は何も変わっていかないと思うのです。それに対して、IBM iマニフェストの活動はベンダーの自主的かつ自発的な取り組みです。だから、IBMも呼応して、

自ら動き出してくれている。IBM iマニフェストはIT業界全般を見渡しても、過去に例のない画期的な取り組みだと思っています。

**熊本** 市場へのメッセージ発信に対するIBMの取り組みとしては、今年8月6日、「実践!コスト最適化対策セミナー」と名付けたIBM iのお客様およびパートナー様向けセミナーを開催します。IBM iに特化したソリューションをご紹介します32のセッションを用意していますが、このうちの21セッションで、IBM iマニフェスト賛同企業の方々に講演いただきます。IBM iマニフェストを支える方々の熱い思いに支えられながら、IBMとしても積極的に情報発信に取り組んでいきます。

**山本** IBM iマニフェストは、この7月1日に新しい活動規約を設け、「第2ステージ」と呼ぶ活動をスタートさせました。「IBM iのよさを広めよう」という趣旨はまったく変わらず、より多くのベンダーに参加いただける仕組みとし、仲間とともに加速して拡大していくのが目標です。IBM iマニフェストに参加されている方々の熱い思いがIT市場の隅々まで伝わっていき、結果として市場全体のIBM iに対する期待・評価が高まるよう今後も努力していくつもりです。

## IBM iマニフェストの組織構成 (2009年7月1日現在)



### \*1 アカデミック・イニシアティブ

将来のIT技術者の育成と促進を目的とした、学生および教育機関向けのITスキル向上支援プログラム  
<http://www-06.ibm.com/systems/jp/i/academic/>

### \*2 iBIアライアンス

IBM iベンダー8社で構成されるグループ。「Blue iSite」ソリューションを展開。第1弾「Blue iSite 販売管理」をリリースした。  
<http://www.kisc1.co.jp/iBI/index.html>

### \*3 一歩会

IBM iベンダー6社で構成されるグループ。共同でセミナーなどを開催している。  
<http://all-as400.net/>

### \*4 UOS

正式名称は「ユオスグループ」。IBM関連のビジネスに携わる250社以上が参加するIT企業集団。1982年設立。  
<http://www.uos.gr.jp/>

### \*5 OSS協議会

正式名称は「OpenSource協議会-System i」。 「OSSが拓くIBM System iの新たな世界!」をテーマにオープンソースソフトウェアの普及を目指す。  
<http://i5php.jp/>